

道路連絡会（第17回）の議事概要

日 時：2013年12月4日（水） 午後2時～午後4時半

場 所：グリーンルーム（あおぞらビル3F）

出席者：近畿地方整備局、大阪国道事務所、阪神高速道路株式会社

原告団：森脇、永野、岡崎他 弁護団：津留崎、村松、早川、中道 あおぞら財団：藤江他

参加者数：人

-
- (1) 国土交通省からの資料説明（国土交通省・阪神高速道路：大阪市西淀川区における環境対策、阪神ハイウェイ）
 - (2) 原告からの提案（西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会資料）
 - (3) 被害者の訴え（岡崎さん、永野さん）
 - (4) 歌島橋交差点について

患者会

- ・地下の交差点は、息が苦しくなる。
- ・エレベータに乗りたくてもタイミングが合わないと、階段を利用することになる。障がい者で足が悪いので困る。
- ・横断歩道と渋滞をバスターにしないでほしい。この会は、渋滞を減らすのが目的ではない。交通量を減らしてほしい。
- ・横断歩道を5カ所つけるのが無理であれば、設置できる部分だけでも設置してほしい。

近畿地方整備局

- ・平成20年には自動車と歩行者の接触事故が5件あったのが、完成後は0件になった。横断歩道があれば、事故リスクが上がる。
- ・歩車分離信号を導入すると渋滞が悪化する。現状は渋滞が減っており、それにより旅行速度が早くなり、それにより大気汚染物質の排出量も10%減少する。
- ・地下横断歩道の案内表示は、利便性がよいようにしていきたい。

- (5) 大気汚染の状況について

患者会の要請

- ・大気汚染物質は減少傾向にあるが、これは単体規制の影響であり、そろそろ下げ止まりになってきているのではないか。
- ・風の向きによって大気汚染物質が西淀川にきている。車自体は減っていない。もっと根本的な対策を考えてほしい。
- ・NO₂は下限値を目指すべきではないのか。
- ・平日に交通量調査をしているが、日曜日や土曜日などの交通量が少ない日に調査し、それと大気汚染の状況との分析をしてはどうか。

近畿地方整備局

- ・PM2.5の発生源は多岐にわたっており、大気中の挙動が複雑である。成分の解明には科学的な知見の集積が必要である。総合的な対策が必要であり、道路管理者が削減目標を決めるのは難しい。
- ・平成23年度と平成24年度の大気汚染物質の濃度を比較すると、若干上がっているが、もう少し長いスパンで見ると、減ってきている。

- ・平日と休日、大型車の比率は異なってくる。それと PM2.5 の関係についてはみるべきだと思う。

(6) 環境ロードプライシングについて

患者会

- ・環境ロードプライシングを開始してから何年もたっている。これ以上、継続しても、大気汚染物質の濃度は下がらないのではないか。どうやって湾岸線にいったらいいのかな。
- ・メールでの大気汚染状況の情報発信の効果を出そうとするには、たくさんの人に登録してもらわないといけない。もっと広報してもらいたい。
- ・環境ロードプライシングは、事業所としての判断もあると思う。社会的なメリットだけではなく、燃費などの経済的なメリットがあったのではないか。そういうところを調査して、成功例を積極的に事例収集して、広く伝えてはどうか。

近畿地方整備局

- ・大型車交通量をできるだけ内陸側を少なくするように、料金の差をつけて、湾岸線を通らせようとする環境ロードプライシングを平成 13 年度から試行を含めて実施している。平成 21 年度で 2 割引きだったのを 3 割引きに割引率を拡大した。区間も広げた。普通車に含まれる大型車も対象にし、対象車も拡充した。
- ・43 号線は 2% 交通量のシェアが減っている。神戸線と湾岸線が増えている。ロードプライシングの目的は、当初と比べて目的はある程度達している。ある程度の効果が出ているので、継続はするが、拡充は考えていない。
- ・大気の状態を電工掲示板やメールで情報を取得できるようにしたり、横断幕で啓発したり、商工会を通じてトラック協会、行政、商工会などにチラシを 7 万部配布するなどしている。ドライバーにもっと啓発していきたい。
- ・湾岸線が中途半端に切れている。伸ばしたいが、非常に難しい。湾岸線の利便性をよくするということを考えないといけない。

(7) 国道 43 号の車線削減、環境レーンについて

近畿地方整備局

- ・国道 43 号は西淀川区では高架構造になっており、環境レーンを実施してもあまり効果がない。
- ・通過交通は高架を走っている。そこにさらに車線の削減ができるかという点と難しいのではないかな。通過交通は側道ではなく、高架区間を通ってもらうのに力を入れていく。

(8) 今後について

患者会

- ・総合調査を実施してほしい。環境ロードプライシングの成果が出て来ているのだから、それを分析してほしい。
- ・大気の状態をよくしていくためには、今以上のことをしないとダメ。目標をつくるなり、自動車交通量の総量を減らすなり、できることを議論したい。

(文責 大阪大学大学院・谷内)